

## 病害虫防除を徹底し、品質、収量の高位安定化を！

### 穂いもち注意報発令中！

### いもち病は早期発見、早期防除が決め手！

- 管内各地で、葉いもちの発生が確認されています。
- 葉いもちが発生したほ場では、治療効果のある薬剤（ブラシン剤、トライ剤、カスミン剤等）で防除を行いましょう。  
※特別栽培の場合、使用できる農薬が生産計画で決まっているため、確認が必要です。
- 穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の2回です。葉いもちの発生が多いほ場では、「穂揃期の7日後」にも防除を実施しましょう。
- 紋枯病は、穂孕後期と出穂期の2回、発病調査を行い、防除の要否を判断しましょう。
- 昨年、稲こうじ病の発生が見られたほ場では、出穂20～10日前に薬剤防除を行いましょう。



葉いもちの病斑

### 「斑点米カメムシ類の発生」多い！

- 斑点米カメムシ類防除の基本は、「穂揃期」と「穂揃期の7～10日後」の2回です。適期防除を実践しましょう。
- 発生状況によっては、「穂揃期の7～10日後から、更に7～10日後」の補完防除を行いましょう。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

### 出穂早まる！田んぼに花水を！

### 間断かん水で根の活力維持、出穂後は湛水管理！

- 出穂までは間断かん水（2日湛水・2日落水）を維持し、根の活力を維持します。
- 穂揃期頃は最も水分を必要とする時期です。湛水状態とし水を切らさないようにしましょう。
- 高温時は水を動かし水田の水温と地温を下げるような水管理、または飽水管理（地表に水がないものの土には十分に水がふくまれている状態。ようかん状で、足跡に水が溜まる程度が目安。）などで、根の活力を維持する水管理に努めましょう。

### 1か月予報（7月20日 気象庁発表）

気温：7/22～7/28：平年より高い見込み

7/29～8/4：平年より高い見込み

8/5～8/18：平年並～高い見込み

降水量：平年並の見込み

日照時間：平年並の見込み

### 農作業事故・熱中症に注意！

山形県農薬危害防止運動実施中！

～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～

